

日本を代表する民間研究組織[HEAT20]と史幸工務店の取り組み！

HYBRID・ECO・HEART-Q

Q&A
HEAT20の家 ②

HEAT 20 のG・1/G・2基準と「省エネ基準」の差！



Q 国が求める住宅性能と、どこが違うのですか？

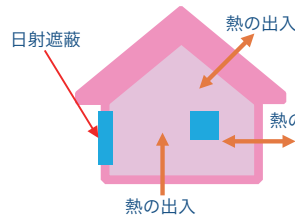
A 国の標準的な基準ではない、最先端の基準を求めています。

◎外皮性能とは？

建物の外部に面した面の性能で、断熱・遮熱・通風・採光などを考慮したものです。

熱の通しやすさを表す「 U_A 」*と日射の遮蔽性能を表す「 η_{AC} 」*があります。一般的には数値が小さいほど性能が高く、熱負荷が小さくなります。

*「 U_A 」=外皮平均熱貫流率 ※「 η_{AC} 」=冷房期の平均日射熱取得率



※なお、断熱性能を発揮するには気密の確保が大事。適切な断熱気密により室内環境をコントロールする準備が整います。

●「省エネルギー基準」(2013)と「HEAT20」 G1・G2基準の差

		熊本県の区分区域							
		1	2	3	4	5	6	7	8
平成25年省エネ基準	外皮平均熱貫流率 U_A 値[W/($m^2 \cdot K$)]	0.46	0.56	0.75	0.87	—	—	—	—
HEAT20 基準 U_A 値[W/($m^2 \cdot K$)] 住宅性能 G1・G2 の選択は建設区分とお客様の希望によって決めています。	G1 基準	0.34	0.38	0.46	0.48	0.56	—	—	—
	史幸 G1 グレード	0.44	—	—	—	—	—	—	—
	史幸 G2 グレード	0.37	—	—	—	—	—	—	—
	G2 基準	0.28	0.34	0.46	—	—	—	—	
冷房期の平均日射熱取得率 (η_A 値)	共通	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	3.2

史幸工務店は、最先端の住宅性能を追求している「HEAT20」【高断熱化技術開発委員会】の熊本県、唯一の賛助会員です。

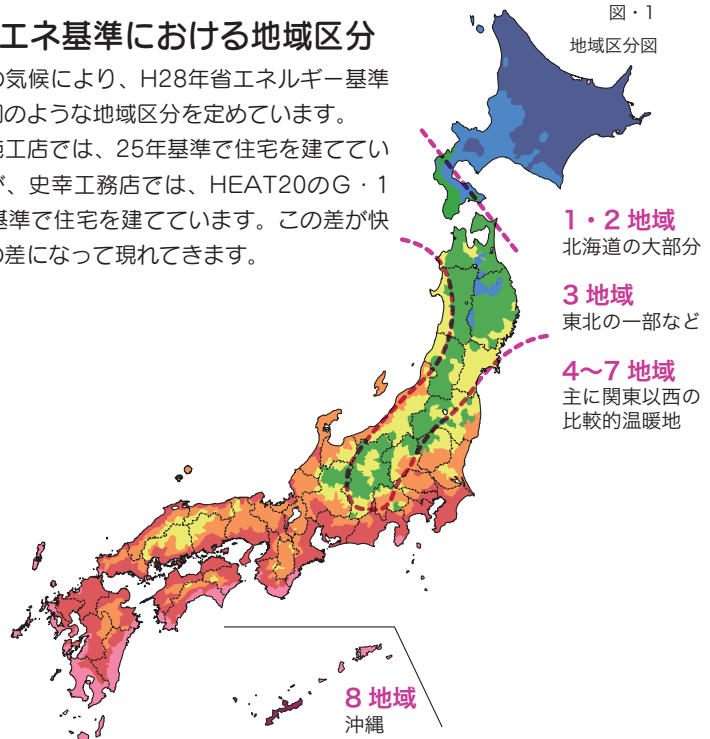
上表のG1グレードでも現行「省エネ基準」の1地域（寒冷地・北海道基準）以上、G2グレードは、HEAT20の3・4地域区分に相当する、最高レベルの住宅を建てています。

◎省エネ基準における地域区分

地域の気候により、H28年省エネルギー基準では図のような地域区分を定めています。

一般施工店では、25年基準で住宅を建てていますが、史幸工務店では、HEAT20のG・1 G・2基準で住宅を建てています。この差が快適さの差になって現れてきます。

図・1
地域区分図



地域区分	主な該当都道府県 注：市町村毎に地域区分を定める
1	北海道
2	北海道
3	青森県、岩手県、秋田県
4	宮城県、山形県、福島県、栃木県、新潟県、長野県
5	茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県
6	山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県
7	宮崎県、鹿児島県
8	沖縄県